# 秋・冬に備えたい、ワクチン接種について

暑い夏が終わると、少しずつインフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症が気になる季節を迎えます。今年はインフルエンザの流行が例年より早く、８月ごろから感染者が増え始めています。

今回は、**インフルエンザワクチン**と**新型コロナウイルスワクチン**について、知っておきたいポイントをご紹介します。

## ① 効果・有効性について

**インフルエンザ**にかかると、発熱やせき、だるさなどの症状が出ます。多くの方は 1 週間ほどで回復しますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院が必要になったり、死亡する方もいます。インフルエンザワクチンには、インフルエンザの発病を予防する効果に加え、かかった場合に重くなるのを防ぐ効果も期待されています。

**新型コロナウイルス感染症**は、流行初期に比べると感染者の報告数は減っていますが、決して注意が不要となったわけではありません。現在も、高齢者などを中心に入院が必要となったり、死亡する方も見られます。2024 年の厚生労働省の統計では、新型コロナウイルス感染症による死亡は高齢者を中心に多数報告されており、その死亡者数はインフルエンザを大きく上回っています。従って、感染者数だけでなく、重症化や死亡を防ぐという観点からも、引き続き注意が必要です。新型コロナワクチンは、有効性や安全性が確認されたうえで国に承認されています。さらに、国内外で実施された研究により、ワクチン接種は新型コロナウイルス感染症にかかった場合の入院や死亡などを予防する効果が認められたと報告されています。

## ②副反応について

ワクチンの種類により、副反応(副作用)が起こることがあります。多くは、発熱したり、注射した部分が腫れるといった、比較的軽く、短期間で治るものです。ごくまれに、重いアレルギーなど、重症の副反応が起こることがあります。

日本では、ワクチン接種後に生じた副反応について、継続的に情報収集を行っています。また、皆様に接種して頂くうえで安全性に問題がないかを専門家が評価しています。万が一、定期接種のワクチンにより健康被害が生じた場合は、健康被害救済制度があります。

## ③接種の対象となる方

インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンは、どちらも定期接種の対象となっています。対象となる年齢や条件、接種を行う時期、費用などはお住まいの区市町村によって異なります。葛飾区では、両ワクチンとも65歳以上の方または60歳から64歳までの方で一定の基礎疾患を有する方が対象です。医師の判断で両ワクチンを同じ日に接種することも出来ます。定期接種の対象者以外の方や、定期接種の時期以外で接種を希望する場合については、任意接種として自費または一部費用負担でワクチンの接種を受けることができます。

本格的な感染症シーズンを迎える前に、ご自身に必要なワクチンについて確認してみましょう。

参考文献
「インフルエンザワクチン(季節性)」(厚生労働省)
(インフルエンザワクチン（季節性）｜厚生労働省（mhlw.go.jp)
「新型コロナワクチンの有効性・安全性について」(厚生労働省)
(新型コロナワクチンの有効性・安全性について｜厚生労働省(mhlw.go.jp)
「新型コロナワクチンQ&A」(厚生労働省)
(新型コロナワクチンQ&A｜厚生労働省（mhlw.go.jp)
「令和6年(2024年)人口動態統計（確定数）の概況」(厚生労働省)
(令和6年（2024）人口動態統計（確定数）の概況｜厚生労働省(mhlw.go.jp)